



SDGs×ESD レポート Vol.19

ESD は (Education for Sustainable Development) 略称で「未来を変える人づくり」を意味します。

発行：NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)

謹んで新春をお祝い申し上げます。昨年は、石川県能登地方を中心とする地震、豪雨災害など、自然災害に悩まされた一年でした。被災された方が一日も早く日常を取り戻せますよう願うとともに、その他の地域の方々も心穏やかな一年を過ごせるように心から祈りいたします。レジリエントな社会の構築のため、本年もESDの推進に共に励んで参りましょう。(事務局・横田)

第3回ユネスコウィーク参加報告

ESD-J 副代表理事 浅井 孝司



2024年11月25日から12月1日にかけて「ユネスコウィーク」が開催されました。その中でも、オリンピック記念国立青少年総合センターの国際会議棟で開催された（ハイブリッド開催）11月29日の国際シンポジウム、30日のユネスコスクール全国大会、12月1日のユースフォーラムの3つの催しには全国から多くの参加者がありました。ESD-Jとしても3日間会場においてパネル展示を行い、会場に来られた参加者に対して広報活動を行いました。

(1) 国際シンポジウム「持続可能な未来へと続く持続可能なコミュニティ」



基調講演はインド環境教育センター (CEE) 代表の Dr. Kartikeya V. Sarabhai 氏が「持続可能なコミュニティを育む—グローバルなインパクトへ向けた ESD と地域活動の統合—」と題してコミュニティ活動が国際的な影響をもたらした CEE の活動を紹介し、その後、実践活動の例として (公社) 日本ユネスコ協会連盟が実施している未来遺産運動について野口昇同連盟顧問から紹介がありました。さらに、タイのラノーンユネスコエコパークにおける取組について同エコパーク主事の Mr. Khayai Thongnunui 氏からも実践

事例が紹介されました。

(2) 第16回ユネスコスクール全国大会 社会に開かれたユネスコスクール ～多様性と共生の未来への貢献～

最初に、俳優でタレントのサヘル・ローズさんから「出会いこそ、生きる力」と題する基調講演が行われました。講演の中で彼女の幼少期の経験やさまざまな出会いによって救われたことで今の彼女が形成されたという話から自身の活動の紹介がありました。

ポスターセッションでは、ユネスコスクール加盟校やキャンディデート校などの活動紹介があり、午後は次の6つの分科会が並行して行われました。

- ① 持続可能な ESD の取組のための外部支援の活用に向けて
- ② 集まれユース！—共生社会の実現に向けた生徒向けワークショップ
- ③ 社会との相互作用を通して創る探求の学び
- ④ ESD が拓く社会—ESD 大賞がもたらすもの
- ⑤ 国際交流・国際協働学習を創造できる教職員
- ⑥ —Act locally—学校と地域をつないだ ESD 展開を一緒に考えましょう

同全国大会終了後には第15回 ESD 大賞の授賞式が行われました。

(3) ユースフォーラム「今から、ここから、わたしから」 ～ユースが集い、創るユネスコ活動の未来

日本ユネスコ国内委員会次世代ユネスコ国内委員会の企画・運営で実施され、会場およびオンライン参加者合わせて約200名の参加がありました。最初に「ユースによるユネスコ活動への期待」と題するユネスコ親善大使で映画監督の河瀬直美さんのスペシャルインタビューの映像が流れました。その後、パネル・ディスカッションや教育、防災、まちづくりの3つをテーマにした分科会が同時並行で行われ、最後にこれまでのユネスコ活動を振り返り、継続・発展させるためのヒントを得るワークショップが行われました。

【所感】今年のユネスコウィークに参加して感じたことは、まず参加者が昨年よりも増えたことです。これは、やはりコロナ感染

が落ち着いたことの影響だと思います。また、内容的にも昨年よりもより充実したものとなっていたと思いました。国際シンポジウムでは、地域の活動に焦点を当てた発表を集め、その地域活動が海外に繋がっていることを重視した内容でした。ユネスコスクール全国大会でも「つながり」を重視した内容であり、学校が取り組む活動に他のステークホルダーが協力し活動の質を高めていくことの重要性を謳ったり、活動の上で問題となる事項の解決策を探ったりする内容となり、盛り多い大会になったと思います。ユースフォーラムも昨年よりも若者の参加が増え、若者たちの主体性が見える内容となっていました。



ESD 推進ネットワーク 全国フォーラム 2024

気候変動 × ○○

～点から線、線から面へのつながりづくり～

参加報告

ESD-J 事務局長 横田 美保

2024年12月1日にユネスコウィークの隣のホールでESD推進ネットワーク全国フォーラムが開催され、ESD関係者が一堂に会し、活発な交流が行われました。

基調報告① 環境省

令和6年5月に閣議決定した「環境教育等の推進に関する基本的な方針」の改定のポイントが説明され、ウェルビーイング（将来世代も含めた心身ともに満たされた状態・豊かさ）、気候変動に対する適応策の重要性、地域のレジリエンスを高める必要性等が強調されました。また、公教育において学生の主体的な学びを深めるための外部との連携、全国センターのような中間支援組織の役割が重要であると言及されました。加えて、活動進捗のフォローアップ・評価のために成果の「見える化」が課題である点も強調されました。



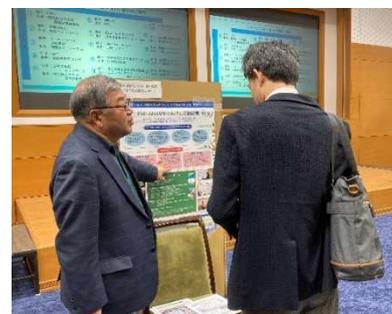
基調報告② 文科省

今回のフォーラムは、ユネスコウィークと日程や開催地を重ねて実施したこと、今後も2つのイベントが連動するように検討していきたい旨が説明されました。また、今年度のESD、SDGs Goal4 関連の活動については、ESD for 2030 の地域会合がマレーシアで開催されたことやブラジルで開催された Global Education Meeting において発出された「フォルトレーザ宣

言」について言及されました。50年ぶりに改定された教育の目標や方向性を示した国際文書「ユネスコ教育勧告」については、国際規範にESDが明記されたこと、日本の国会でも報告されたことも言及されました。

ポスターセッション

参加者は自由に展示を見て回り、ポスター展示を行った団体が活動紹介を行ったり、参加者との交流を行ったりしました。



NHK エンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー 堅達 京子さんの講演

2024年11月11日～24日に開催された国連気候変動枠組条約第29回締約国会議（COP29）の報告がなされました。アクションを生み出すためには対面のコミュニケーションが重要であること、気候変動問題や生物多様性を伝えるツールとしてアートが有効であること、前例のない世界課題の解決にはパラダイムシフト、イノベーションが必須であり、社会の仕組みを変えることのできる子どもたちの育成（＝ESD）こそが重要であることなどが述べられました。

パネル・ディスカッション

「気候危機を乗り越えるために我々に求められること」について、5名のパネリストが意見を交わしました。力を持ち寄る協働の必要性、意思決定の場に子どもたちも含め多様なステークホルダーが参加すること、子どもの頃から社会を変えるという経験を積み重ねること、自己肯定感を高めることの重要性などの意見が印象に残りました。

パネル・ディスカッションでの議論を受けて、参加者間でざっくばらんに意見や疑問を共有する時間が設けられ、複数の参加者と意見交換をしたり、活動を紹介しあったりしてネットワーキングをする機会を創出することができました。久々に対面でお会いできた方も多く、対面のイベントの良さを改めて実感することができました。

ESD-J オンラインセミナー実施報告

「第 12 回環境教育世界会議 (12th WEEC) 参加報告会」

- **日時** : 2024 年 9 月 18 日 (水) 19:00~20:45
- **司会** : 鈴木 克徳 (ESD-J 代表理事)
- **講演者** : (敬称略)
 - ニノ宮リム さち : 立教大学環境学部設置準備室・大学院社会デザイン研究科教授
- **報告者** : (敬称略)
 - 森 朋子 : 東京都市大学准教授
 - 棚橋 乾 : 全国小中学校環境教育研究会顧問
 - 栗島 英明・谷田川 ルミ : 芝浦工業大学教授 (お二人共通)
 - 矢動丸 琴子 : IUCN-CEC (教育・コミュニケーション委員会)
 - ニノ宮リム 虹 : ユース (参加当時高校生)

まず、司会の鈴木 克徳理事より趣旨説明とゲストの紹介を行いました。

【ニノ宮リム さちさんの講演】

今回は第 12 回目の会議で、83 か国から 3,131 人が参加し、310 のセッションにおいて 337 人のスピーカーが発表しました。全体会議と分科会とがあり、口頭発表、ラウンドテーブル、ポスター(電子看板型)等の 5 つの発表スタイルが採用されました。



トリプル・プラネタリー・クライシス(三大環境危機: 気候変動・廃棄物 & 汚染・生物多様性損失)をはじめとする 10 のテーマが設定され、発表者はそれぞれのテーマに応じて発表しました。

この大会の成果物として、アブダビ・ロードマップという宣言が発出されました。2030 年に向けて環境教育や ESD の 7 つの緊急アクションが提案されました。

大会を通じて印象に残った点は以下の通りです。

- 社会情動的な学習 (socio-emotional learning) への着目の進展
- 多数のデジタル技術・AI の可能性と課題に関する注目の高まり
- ユースの重視、ユース・セッションの開催と課題
- インドの環境教育センター (CEE) と IUCN の呼びかけによる SASEANEE (South and Southeast Asia Network for Environmental Education) のキックオフ

次回の会議はオーストラリアのパーズで 2026 年 9 月 21 日~24 日 (仮) に開催の予定です。

【12th WEEC に参加した他の方々からの報告】

■ 東京都市大学 森 朋子さん

多くの発表がパラレルに行われましたが、その内容と質は極めて多様でした。北米環境教育学会などと比べて、裾野が大変広く研究者、実践者だけでなく、芸術と環境教育が語られる等、多様な方が参加していました。



■ 全国小中学校環境教育研究会 棚橋 乾さん

問題解決に向けて主体的に取り組むための環境整備をどうするかなどや、環境教育が広まらない困り感は他国も日本と同じだと感じました。



■ 芝浦工業大学 栗島 英明さん 谷田川 ルミさん

「未来とつながる授業」として種子島の中学・高校と組んでバックキャスト的な思考を柱とする学びについて、その活動のポスター発表を実施しました。各国の人たちが同じ悩みを共有していることが分かったことで、モチベーションアップにつながりました。



■ ユース ニノ宮リム 虹さん

本会議とは別に設けられたユースの会議 (YEEC) に参加しました。学生や研究者が環境教育にどのようにアプローチしているのかなどの発表があり、ケーススタディを用いてグループでの討議が行われました。この会議で積極的な大人たちの話を聞くことができ、元気を分けてもらえ、とても参加して良かったです。



【セミナーに参加しての気づきや学び (抜粋)】

- 会議の文書からだけでは見えてこない様々な面について、会議に参加した多くの方々からお話いただいたことは大きな収穫だったと思います。
- ユースの参加が重視された点は印象的でしたが、現実にはユースのセッションと一般のセッションとがうまくつながらなかった等の課題があったとの発表も次につながる改善点と思いました。

◆ 報告詳細は以下のリンクをご覧ください!

(https://www.esd-j.org/report/esd-jseminar_12thweec/)



京都市花脊地区自然共生サイト推進事業（2025年～）

令和7年初旬より京都市花脊地区自然共生サイト推進事業をパタゴニア環境助成金プログラムの助成を受けて実施することとなりました。ESD-Jの近畿地区担当の松田直子理事を通じて支援を求められた京都市花脊地区は、水源林としての環境保全機能を有する地域であり、様々な植生調査や外来生物であるオオハンゴンソウの駆除活動などがそれぞれの小規模なNGOにより行われている地域です。



花脊地区は自然に恵まれ、4月の桃の節句宮詣や夏の松上挙げ、秋の峰定寺大護摩供、冬の洞泉寺大般若会等、四季折々の伝統文化行事が行われています。地域の自然・文化の保全と利用の充実・強化を通じた地域の活性化と自然共生サイトへの認定に積極的であることから、個別団体だけでは難しい地域での生物多様性の保全活動をESD-Jが伴走支援することで推進していきます。活動の進捗については、今後、ニュースレターやウェブサイトでお知らせします。

令和6年度 自然公園関係功労者環境大臣表彰 金澤 裕司理事が受賞！

環境省では、自然公園の保護とその適正な利用に関し、顕著な功績があった者を自然公園関係功労者とし、環境大臣表彰を行っています。今年度は25の個人及び団体が表彰されました。

標津高校や羅臼高校で、環境教育関連の教育カリキュラム等を策定、2007年より羅臼町教育委員会自然環境教育主幹を務め、「知床学」を通してESDを推進し、北海道東部のESD普及に尽力したことが評価され、金澤 裕司理事が受賞されました。

【金澤理事のコメント】

知床学は、一般的に広く行われている地域の環境学習から出発しましたが、歴史や経済、社会的課題などもテーマとして取り入れました。また、その一方で知床の抱える課題から自然と人間の関係のあり方への考察を深めて、望ましい自然観を形成するという目的も併せ持っています。それは、教科ごとに縦割りされている学習に何本もの横串を刺す学びだと考えています。

今回の表彰は、1人の個人に贈られた形になっていますが、知床学を共に生み出し実践し支え続けて下さった全ての人への表彰だと理解しています。厚くお礼申し上げます。

私は今、毎日薪割りをしています。多くの枝が色々な方向に出ている幹は一撃では割れ難く、苦労します。正に横串が刺さった状態なんです。つまり教科別の学びに刺す横串が総合的な学習や探究なのだと思います。個々の教科別の学びを深めて何本もの横串で繋ぐと学びが強化されるのでしょう。ようやく、ESDがわかってきました（笑）



◆編集後記：2025年1月31日（金）19:00～20:30にESD-Jオンラインセミナー「JARTAによるサステナブルツーリズムに向けた活動」を開催予定です。メールリストでも、ご案内差し上げておりますので、持続可能な地域観光や、国際的な環境認証、企業の職員等に対する環境教育等にご関心のお持ちの皆様、是非ご参加頂けると幸いです。 ◆お申し込み：<https://forms.gle/dpxAJtS6JgNB2xqU8>

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201

TEL：03-5834-2061 FAX：03-5834-2062 MAIL：jimukyoku@esd-j.org

会員募集中：正会員（10,000円）、準会員（3,000円）詳しくはWEBサイトをご覧ください

